

felissimo fund report

2011年度
フェリシモ 基金活動報告書

{ 2011.3 - 2012.2 }

東日本大震災支援活動

もっと、ずっと、きつと

東日本大震災の発生後、みなさまからの暖かいご支援をお寄せいただき誠にありがとうございます。フェリシモでは「もっと、ずっと、きつと」を合言葉にひとりひとりが起こすアクションが確実に未来につながると信じ、被災地の復興の道りを長い視点で、みなさまと一緒に応援してまいりました。震災発生後、みんなができる「続ける支援」のひとつとして、1口100円から寄付できる「東日本大震災 毎月100円義援金（基金）」のご案内を開始いたしました。みなさまからの暖かい支援は2012年7月時点で¥116,738,959にのびます。震災当初は緊急支援活動として生活物資をお送りし、また生活環境を支援する活動をおこないました。その後、中長期支援活動として、東北の産業復興を支援する商品の販売、人々の心の復興を願い子どもスマイルミュージカル、学童保育への支援、心のケア、被災地へ花の苗をお配りし、お客さまとともにさまざまな支援を続けております。今後ともみなさまとともに息の長い支援を送り続けてまいります。

緊急支援活動

- これまでの緊急支援活動
- みなさまからお寄せいただきました義援金（基金）によって、震災直後から被災地に入ったNGO団体などを通じて、被災地での緊急支援活動を行いました。
 - 仙台市や南三陸町での緊急医療活動（提出先：アムダ）
 - 仙台市内の避難所などでの炊き出し活動（提出先：ADRA Japan）
 - 岩手県、宮城県、福島県での避難所で過ごされている方々や自宅で避難生活を送る方々への緊急生活物資（暖房用燃料、非常食品、衛生用品など）の提供（提出先：ジェン、難民を助ける会）
 - 名取市、気仙沼市などでの展開する緊急医療活動のための医薬品や在宅ケア用品等の提供（提出先：シェア＝国際保健協力市民の会）
 - 気仙沼市の被災者への入浴機会の提供（提出先：シャンティ国際ボランティア会）
 - 被災地の女性と妊産婦に必要な支援物資の提供と助産師による訪問活動への支援（提出先：家族計画国際協力財団（ジョイセフ））
 - いわき市内での倒壊家屋の片付け、家財探し、避難所でのケアなどのボランティア活動支援（提出先：シャラプニール＝市民による海外協力の会）
 - 遠野市を拠点に被災地内外の連携を核とするボランティアコーディネーター派遣への支援（提出先：被災地NGO協働センター）
 - 南相馬市での自宅避難世帯への災害臨時放送（FM）受信のための携帯型ラジオの提供（提出先：日本国際ボランティアセンター）

被災地から

ADRAJapanを通じて、仙台市内において避難所などを中心に、暖かいおみそ汁とおにぎりなどを提供する、炊き出し活動を行うことができました。震災から4日後のお昼に仙台市宮城野区の中学校で提供したおみそ汁は、震災後人々が初めて口にできた暖かい食事だったそうです。



難民を助ける会を通じて、避難所はもちろん、自宅で避難生活を送る方々などに支援物資を配布することができました。「いちばん大変な時に、いち早く声をかけていただき、物資の手配をしていただいていた大変助かりました」といった声を多くいただいています。



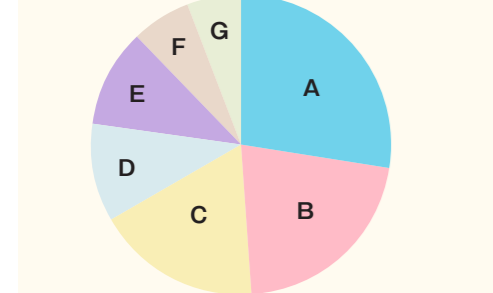
中長期支援活動

「もっと、ずっと、きつと」をスローガンに緊急支援だけでなく、中長期的な支援も随時行っております。みなさまから寄せられましたアンケートをもとに、子どもたちへの支援、ひとりひとりの生活復興への支援、心のケア支援、その他の支援活動と活動分野を大きく分け、それぞれの活動分野で複数の支援活動を実施いたしました。震災より一定の日が経過いたしました「もっと、ずっと、きつと」をスローガンにお客さまとともに被災地への息の長い支援を継続していきます。

みなさまからお寄せいただいたアンケート

みなさまからの声をアンケートでお寄せいただきました。

子どもたちへの支援、ひとりひとりの生活復興への支援、人々の健康のための支援に対するお声が多くあり、それぞれのお声に応じた支援を実施いたしました。



東日本大震災被災地支援活動についてのアンケート（2011年6月実施 有効回答数：391件）

A 子どもたちへの支援

東日本大震災発生後、被災された方や被災地の支援のために設立された「フェリシモメモリーしあわせ基金」は、毎月みなさまからたくさんのお寄せいただきありがとうございます。子どもたちへの支援活動として「子どもスマイルミュージカル」を開催しました。今までに2011年9月に名取市で、2011年12月に気仙沼市で、2012年2月に南三陸町で3回おこなわれました。名取市で開催された「子どもスマイルミュージカル」の主演は、小・中学校の生徒たち。名取市の沿岸部は大きな被害を受けたため、ふるさとを離れた、仮設住宅に移った子どもたちもいました。感動のフィナーレのあと大きな拍手に見送られてステージを去り、子どもたちもスタッフも、笑顔と涙でミュージカルの成功をいつまでもよろこび合いました。



子どもミュージカルを通して、主役の子どもたちも、サポートした大人たちも、訪れた観客も、久々の再開に笑顔があふれ、さらに子どもたちの一生懸命な姿はみんなに元気を与え、復興への一歩を踏み出すことにつながりました。今後も未来の東北の復興をなう子どもたちや若者を応援する活動する支援を展開していきます。

B ひとりひとりの生活復興への支援

東日本大震災の被災地では、多くの方が住まいを失われました。宮城県気仙沼市で仮設住宅での生活を余儀なくされた方々へ、みなさまからの義援金（基金）を通じて掃除機や収納簡易家具などを寄贈いたしました。



家財の寄贈



仮設住宅で暮らす方々へ、冬の寒さの厳しい時期に冬物家電を寄贈しました。ご家庭それぞれに必要なとされる家電を被災世帯に戸別調査を行い、本当に必要なものをお届けしました。

D 新たに誕生した支援アイテム 地域の産業復興への支援

とうほく帖

2011年6月より開始した東北の物産を販売するプロジェクトをさらに充実させ東北とお客さまとのきずなを結ぶ「東北帖」をカタログとWEBでスタートしました。フェリシモのオリジナル商品を企画販売する事業をいかし、東北の魅力ある商品を多くの方々にお伝えし、長期にわたって東北の復興支援を目的に活動をしています。



その他の支援 東北動物支援

メリーポイントや、基金月猫グッズのご購入、「毎月100円わんにゃん基金」などによりご支援をいただいている基金の提出を、2011年末に行いました。



基金付き商品 「アルモンドチャリティリング」



みんなでつながる レインボーTシャツを発売



東日本大震災で被災した動物たちの保護活動支援を目的として、5団体に各448,000円、計2,240,000円を提出しました。その5団体のうちの1つである、特定非営利活動法人アニマルレフュージ関西より、震災発生以後東北から沢山の動物が保護されました。飼い主さんから直接の引取りおよび一時預かり、放浪犬のレスキュー、被災ブリーダーからのレスキューがなされました。

C 心のケア支援 人々の健康のための支援

特定非営利活動法人メドゥッサン・デュ・モンド・ジャポン（世界の医療団）へこころのケア活動の支援として3,000,000円を提出しました。精神科医、医療コーディネーター、プロジェクトコーディネーター、看護師、ロジスティシャン、鍼灸、運動療法の専門家からなるこころのケアチームを岩手県精神保健福祉センターからの要請により岩手県上閉伊郡大槌町に派遣されました。避難所、学校、個人宅などをまわりながら医療だけでなく包括的なケア活動を展開しました。2011年12月末時点で959件の精神医療診察・相談が行われました。



2011年10月下旬から12月にかけて、宮城県石巻市内において、花の苗やプランター、チューリップの球根をお配りしました。仮設住宅団地や、住宅に津波被害を受けた在宅避難者の世帯など15カ所、約1000世帯です。暮らしている方の中には自宅の庭や畑を持っていた方が多く、花や野菜を育てることは「心の元気」を取り戻すことにつながります。毎月100円義援金（基金）を通じて、被災地に花のいやしをお届けすることができました。



D 女性による東北の産業復興を支援 地域の産業復興への支援

IPPOプロジェクト

東日本大震災に対する息の長い復興支援の必要性から、女性による東北の産業復興を支援する「とうほくIPPOプロジェクト」を開始しています。このプロジェクトは、責任者、主体者メンバーが女性であることを条件に、事業提案を公募し、審査の結果選ばれた個人・団体に支援金を支給し、被災地の産業復興のきっかけづくりにつなげていきます。女性が活躍することで、家族を元気にし、地域を明るく変え、社会を生き生きとさせていくような連鎖反応を期待して、本プロジェクトの支援の対象を女性としました。そんな女性たちがこれから未来に向かって進んでいく最初の「一歩」となることを願って、「とうほくIPPO（いっぽ）プロジェクト」と命名しました。全国のたくさんのお客さまからお預かりした「東日本大震災毎月100円義援金（基金）」「東日本大震災 もっとずっときつと基金」などから支給します。

東日本大震災での保護動物総数	217頭
飼い主さんの元へ戻った頭数	45頭
里親さんの元へ巣立った頭数	125頭
引き続きお預かり中	16頭
現在里親募集中	31頭

※2011年12月時点

2011年度 フェリシモ基金活動のご報告

フェリシモ基金活動は、お客さまおひとりおひとりの善意を基金というかたちでお預りし運営しています。

たくさんのご参加、本当にありがとうございました。

感謝の気持ちとともに、ここに2011年度の全基金活動をご報告させていただきます。

はじめはひとりでも、小さなことも集まれば大きな夢の力になります。今後ともどうぞよろしくお願いたします。

2011年度基金総額

2011年3月～2012年2月

みなさまからお寄せいただいた基金の収支をご報告します。

期首残高	¥ 125,862,931	
収入	¥ 167,816,425	
支出	¥ 128,078,587	
期末残高	¥ 165,600,769	(2012年2月末現在)

東日本大震災 緊急義援金 (基金)

東日本大震災の発生直後に開設した「緊急義援金」の窓口寄せられた義援金(基金)で、被災地への緊急支援に活用されました。

2011年度は、お客さまから14,449,125円をお預かりし、以下の事業に総額12,154,295円を抛しました。

※お預りした基金には、フェリシモ従業員の義援金1,404,120円、国内外のお取引先からの義援金766,005円が含まれています。

避難所で生活を送る500世帯の方々へ緊急支援物資(お米、灯油)を配布しました。(協力団体:ジェン)

避難所で提供される炊き出し2,100食分を支援しました。(協力団体:ADRA Japan)

20カ所以上の避難所への巡回診療と救護物資の配布を支援しました。(協力団体:アムダ)

避難所、社会福祉施設、在宅で暮らす障害者・高齢者へ緊急支援物資を配布しました。(協力団体:難民を助ける会)

避難所生活を長く送っている被災者に入浴機会の提供を支援しました。(協力団体:シャンティ国際ボランティア会)

緊急医療支援ならびに訪問介護、巡回健康相談の実施を支援しました。(協力団体:シェア=国際保健協力市民の会)

被災地のお母さんと赤ちゃんに必要な授乳衣類、下着などのキット(500セット)を配布しました。(協力団体:ジョイセフ)

避難所にて飲料水、食料品、医薬品などの緊急支援物資の配布を支援しました。(協力団体:シャプラニール=市民による海外協力の会)

避難所で生活を送っている方々へストレスや全身の疲れを軽減のための「足湯」活動を支援しました。(協力団体:被災地NGO協働センター)

避難されている方々へ子ども靴、靴下、女性用インナーなどの緊急支援物資を配布しました。(協力団体:アムダ)

夏季の衛生対策として仮設住宅で暮らす方々へクールネックマフラー2,700個の配布ならびに避難所、障害者・高齢者施設へ掃除機、空気清浄器などをお贈りしました。(協力団体:難民を助ける会)

福島県南相馬市の住民へ原発にまつわる情報などをタイムリーに得られるよう携帯型ラジオ100台をお贈りしました。(協力団体:日本国際ボランティアセンター)

避難所で生活を送っている方々へ下着などの衣料品をお贈りしました。(協力団体:遠野まごころネット)

仮設住宅での生活復興支援として、冬物家電をお贈りしました。(協力団体:牡蠣の森を募る会)

被災地で生活する子どもたちの心のケアを目的に「自分の灯り」ワークショップを実施しました。(協力団体:宮古市社会福祉協議会)

仮設住宅で生活する方々に「心のケア」に家庭菜園用のプランターをお贈りしました。(コミュニティ形式、住民の心のケア支援) (協力団体:ジェン)

東日本大震災 毎月100円義援金 (基金)

毎月一口100円の寄付による参加をいただき、集まった基金で、東日本大震災で被災された方々の心と暮らしの立て直し、地域の復興などを長期的に支援します。

2011年度は、お客さまから53,352,235円をお預かりし、次の事業に総額16,293,500円を抛しました。

宮城県石巻市内にて、花の苗やプランター、チューリップの球根の提供し、家庭菜園を通じた心のケア活動を支援しました。(助成団体:ジェン)

岩手県三陸地域で、荒れ野となってしまった被災地の畑や、流されてしまった人家の庭、避難所の周囲を花や農作物で埋め尽くすことを目指した「まごころだね」プロジェクトの支援として家庭用の園芸プランター5,500個を提供しました。(助成団体:遠野まごころネット)

東日本大震災により、不眠や気分の落ち込み、フラッシュバックなどで苦しむ方々へのサポートとして、精神科医、医療コーディネーター、看護師、ロジスティシャン、運動療法の専門家からなる「こころのケア」医療チームの派遣を支援しました。(助成団体:メドゥサン・デュ・モンド ジャパン)

東日本大震災で被災した障害者施設(かまいし共生会 グループホームかみくり荘)、高齢者介護施設(医療法人勝久会 小規模多機能ホーム小百合)の修繕活動を支援しました。(助成団体:難民を助ける会)

東日本大震災で被災した子どもたちの心のケアを目的に、岩手県、宮城県、福島県の小学校、幼稚園、児童館、仮設住宅など53ヶ所で行われたアートワークショップの活動を支援しました。(助成団体:ARTS for HOPE)



ワークショップの様子 © ARTS for HOPE

東日本大震災で甚大な被害を受けた地域に伝承する無形文化を復興するとともに、被災された方々の心の支援を目的として、宮城県気仙沼市「小々汐太鼓」、岩手県大船渡市「浦浜念仏刺舞」、宮城県巨理郡山元町「中浜子ども神楽」、岩手県大槌町「みどりっこ太鼓」で使用する太鼓などの備品を支援しました。(助成団体:日本ユネスコ協会連盟)



小々汐地区で開催されたさざなみ祭り太鼓が復活しました。 ©日本ユネスコ協会連盟



町の復興イベントで中浜子ども神楽が上演されました。 ©日本ユネスコ協会連盟

東日本大震災 もっとずっとずっと 基金

東日本大震災により被災された地域、

人々の復興支援のために商品の一部を基金付きで販売しています。

お預かりした基金は、東日本大震災の復興支援、子ども支援に活用されます。

2011年度は、お客さまから3,460,191円をお預かりしました。

メリー しあわせ基金

フェリシモが発行するお買い物ポイント「フェリシモメリー」でプレゼントを選ぶ代わりに、被災された方々を応援するプログラムです。集まったメリーの相当額は、東日本大震災で被災された方々が笑顔になれる、希望を感じられる活動を継続的に行うために活用されます。

2011年度は、お客さまから17,850,720円をお預かりし、以下の事業に総額6,878,233円を抛しました。

「子どもスマイルミュージカル」

宮城県名取市、気仙沼大島、南三陸町の3エリアで「子どもスマイルミュージカル」を開催しました。未来の東北の復興を担う子どもたちが、ステージに上がり、大きな声を出して楽しみながら、一生の思い出に残るような1日になりました。一緒に舞台を作り上げる喜びと、子どもたち自身がステージで歌い踊る様子は、観客の方にも感動を与え、地域住民全体の活気や子どもたちの心のケアにつながりました。



「フェリシモ東北落語会」

2011年12月20日に、宮城県の仮設住宅集会所で「フェリシモ東北落語会」を開催しました。みなさん「笑点が好き!」とのことと、終始、会場には笑いが絶えませんでした。落語のあとには参加型のお楽しみの時間もあり、斬家さんとのテンポいいやりとりも楽しんでいただきました。

フェリシモの森基金

TOTAL

フェリシモの森基金スタート以来、集まった基金は累計で約3.8億円となり、国内外38カ所で約2,076万本の植林が実現しています。

- *「フェリシモの森活部」が誕生！
「フェリシモの森基金」の活動をさらに広げ、お客さまとともに森を守り、育てるために「フェリシモの森活部」（専用ウェブサイト）ができました。
詳しい活動内容は、
<http://feli.jp/s/mori/>（パソコンのみ）をご覧ください。

毎月一口100円の寄付による参加をいただき、集まった基金で、国内外での森づくりを進めています。

2011年度は、お客さまから11,469,150円をお預かりし、国内外の森づくりに23,889,673円を拠出しました。

フェリシモの森基金では、インド（西ベンガル州、ジャルカント州、オリッサ州）において、継続的な植林活動を進めています。このインドの森づくりは、森林の保護、緑化促進、農村開発の3つを目的として、現地のNGOタゴール協会とともに進めています。2011年度は、乾燥した岩場などの未開拓の休閑地や川や用水路、車道脇などの土手、村の貯水池を囲う土手、村の人々の居住エリアを中心に117の村に166万本の植樹を行いました。また、この植樹の苗木を育てる事業を通じて、3,671人/日分の仕事の機会にもつながりました。さらに植林と並行して、260回以上の啓蒙キャンプを行い、住民の自然環境への意識の向上が図られました。こうした努力により、住民たちの自発的な森林の保護活動も活性化しています。



インドの森づくりの参加者たち



成長した木たちを見守る村人



新たに植樹した苗木

フェリシモ 日本伝統生活文化基金

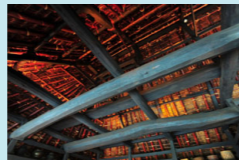
毎月一口100円の寄付による参加をいただき、集まった基金で、日本の生活に宿る伝統文化の保護と継承を支援しています。

2011年度は、お客さまから1,060,690円をお預かりし、**箆庵（ちいおり）**トラストの日本伝統生活を守る活動に1,180,000円を拠出しました。

徳島県三好市東祖谷（いや）にある築三百年の「箆庵（ちいおり）」は、1973年から約13年アレックス・カーさんが多くの人々の協力を得ながら修復を進めた古民家。
日本伝統生活文化基金は、「箆庵（ちいおり）」の茅葺（かやぶ）き屋根の修復を支援しました。



©ちいおりトラスト
屋根の葺き替え作業の様子



©ちいおりトラスト
茅葺き屋根（屋内から）



©ちいおりトラスト
改修後の箆庵（ちいおり）外観

アレックス・カー/Alex Kerr

1952年アメリカ生まれ。64年に初来日し、横浜に2年間在住後、帰国。エール大学で日本学、オックスフォード大学で中国学を専攻。71年にヒッチハイクで日本一週の旅を敢行中に茅葺（かやぶ）き民家に出会い、73年にその再生活動を始める。現在は主に京都とタイ・バンコクを拠点とし、日本と東アジアの美術館蒐集（しゅうしゅう）、文化および環境改善のコンサルタント、執筆、講演、通訳など多方面で活躍。94年『美しい日本の残像』で新潮学芸賞受賞。近著は現代日本の問題の根源に迫る『犬と鬼』。

毎月一口100円の寄付による参加をいただき、集まった基金で、動物たちの保護と飼育主探しを支援しています。

2011年度は、お客さまから5,838,420円をお預かりし、国内の5つの動物保護団体に総額1,965,000円を拠出しました。

国内の様々な団体での動物の里親探しの活動、一時的に保護している犬や猫のフード代や医療費、野良猫の過剰繁殖の防止活動、災害時の動物保護活動などの支援に使われます。2011年度は東日本大震災で被災したエリアでの保護活動の支援を行いました。

フェリシモ 地球村の基金

TOTAL

フェリシモ 地球村の基金スタート以来、集まった基金は累計で2.6億円を超え、世界54カ国181の活動を支援することができました。

- *「みんなの地球村」が誕生！
フェリシモ「地球村の基金」の活動をさらに広げ、世界のさまざまな人たちの繋がりを育むために「みんなの地球村」（専用ウェブサイト）ができました。
詳しい活動内容は、
<http://feli.jp/s/earth/>（パソコンのみ）をご覧ください。

毎月一口100円の寄付による参加をいただき、集まった基金で貧困からの自立、自然災害などからの救済、復興の応援など、世界各地で進められている活動を支援します。

2011年度は、お客さまから9,351,780円をお預かりし、次の17事業に総額11,736,072円を拠出しました。

大洪水で被災した学校の再建と教育環境向上事業
パキスタン国ハイバルパトウンハー州コヒスタン郡において、2010年の洪水で倒壊した公立女子学校 Kuz Kalay 校に仮校舎の建設ならびに黒板などの学校資機材、ノートなどの学用品の配布を支援しました。洪水で倒壊して1年以上、青空教室で授業を受けていた子どもたちに笑顔が戻りました。
（助成団体：国境なき子どもたち）

プライマリヘルスケアへのアクセス改善プロジェクト
ニジェール、マリ、ブルキナファソにおいて、5歳以下の乳幼児及び妊産婦のための基礎的な医療を提供する活動を支援しました。支援により、妊産婦と5歳以下の乳幼児に対するマラリア予防を強化し、ブルキナファソでは分娩の無料化、マラリア患者の治療を行うことができました。
（助成団体：メドゥサン・デュ・モンド ジャパン）

婦人科健診キャンプ活動
ネパール南西部に位置するナワルバラシ郡の4村において、低カースト、インド系移民及びイスラム教徒の女性を対象に婦人科疾患に係る啓発キャンペーン、モバイルキャンプを通じて検診の機会を提供する活動を支援しました。
（助成団体：AMD A社会開発機構）

寺子屋教室整備事業

長く紛争状態が続いているカンボジアとタイとの国境地帯にあるカンボジア王国プレアビヒア県の13村の公教育を受けることができない子どもたち829人に文房具などの学用品を提供することができました。
（助成団体：エファジャパン）



©エファジャパン

水と衛生改善事業

20年以上に及ぶ内戦により劣悪な環境での生活を強いられている南スーダン共和国において、不衛生な水資源により蔓延する下痢やコレラなどの病気を防ぐため、水質検査に必要な試薬及び消耗品などを提供しました。
（助成団体：ケア・インターナショナル ジャパン）

難民の子どもたちへの教育支援事業

パキスタンのハリプール郡およびマンセラ郡にある32校のアフガン難民学校（総児童数 約1,100人）にサッカーボールやバドミントンなどの運動用資器材を提供し、難民生活を送る子どもたちに協調性やチームワーク等、スポーツマンシップの醸成を目的とした活動を支援しました。
（助成団体：難民を助ける会）

洋裁コースを通じた障害者支援事業

タジキスタン共和国ドゥシャンベ市において、障害者及びその家族が将来的に自立して、安定した収入を得られるよう、ミシンなどを提供し、洋裁コースの実施を支援しました。
（助成団体：難民を助ける会）

ストリートチルドレン支援事業

モンゴル ウランバートル市において、医療、教育、社会保障といった社会福祉サービスを受けることができないストリートチルドレンを保護するために子どもセンターを開設し、シャワーや洗濯などの基本的な生活支援、読み書き勉強会などの教育支援、ソーシャルワーカーを通じた社会福祉サービスの提供を行う活動を支援しました。
（助成団体：セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン）

ネパール東部における震災復興支援事業

2011年9月にネパール・インド国境近くを襲ったマグニチュード（M）6.9の大地震が発生しました。この震災により最も被害が大きかったエリアのひとつボジュール郡において、校舎が全壊し授業が中断している学校15校を対象に仮設教室30棟を設置するためのシート、ならびに黒板や文具などのスクールキットの提供を支援しました。その結果、幼児クラスから10年生までの生徒合計1,144人（女子578人、男子566人）が継続して学習することができました。
（助成団体：セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン）

洪水で被災したミャンマーの子どもたちのための基礎教育支援および保護の活動
2011年10月に発生した大型台風O2Bの影響により、家を失ったり、通学が困難になった子どもたちが、安心・安全な環境のもと学習を継続できるよう、学用品（689セット）の配布を支援しました。災害発生時は、学期の途中であったため、子どもたちだけでなく、親や地域の大人も子どもたちの学習の遅延を心配していましたが、早期の段階で学用品を配布することにより、子どもたちが遅れることなく学習を再開することができました。
（助成団体：セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン）

タイ洪水被災者に対する緊急医療支援活動
7月末からのモンスーンと相次いだ台風の豪雨により、タイで大規模な洪水が発生しました。この洪水の被害にあった方々へライフジャケット、抗生物質などの巡回診療用の薬品、家庭用医薬品（1,000人分）などの救護物資の提供を支援しました。（助成団体：アムダ）

障害者のための就学・就労促進事業
障害者の32%が初等教育を受けていない状況のミャンマーにおいて、障害児108名に学用品を提供し、経済的にサポートが必要な障害者34名（世帯）へ家畜を提供するなど、就学・就労支援を行いました。飼育により増えた家畜の一部は未だ支援が届いていない方々に譲渡されるなど、相互扶助への取り組みも広がっています。
（助成団体：難民を助ける会）

地震で被災した青少年に対する就労に結びつきやすい職業訓練事業
2006年5月に発生した「ジャワ島中部地震」により特に甚大な被害を受けたインドネシア ジョグジャカルタ特別州バンドゥン県において、震災によって職を失った青少年を対象とした職業訓練クラスで使用する資器材および教材などの提供を支援しました。（助成団体：国境なき子どもたち）

フェアトレード生産者の自立を支える織物技術指導
カンボジア タケオ州において、母子家庭や貧困家族の女性たちが安定した収入を得て家族を支えることができるように、新しく織物を始めた村に出向き、織物の技術を伝える巡回研修で使用する資材を提供しました。
（助成団体：幼い難民を考える会）

HIV予防啓発およびケア・サポート
タイラオス国境地域に位置し、最もエイズ患者数が多く、患者数が増え続けているウボンラーチャターニー県ケマラート郡において、HIV予防啓発活動を支援しました。
（助成団体：シェア=国際保健協力市民の会）

学校建設事業

長年の内戦により教育を含む社会インフラが崩壊したカンボジアにおいて、国が定める1教室あたりの生徒数基準（50名）を超えて授業を行っているトゥム・レーン小学校に新たな校舎（平屋1棟3教室）、トイレの建設、ならびに教壇や黒板などの教室備品の提供を支援しました。校舎の建設は、地元住民も参加して進められたことにより、保護者や地域住民に教育への関心を高めてもらい、次世代教育に対する理解を深める機会につながっています。
（助成団体：ジャンティ国際ボランティア会）

幼児へ医療・栄養供給事業

ニジェールの中でも食糧不足が最も厳しいタウア地方において、栄養不良の幼児へ医療・栄養供給を目的に、医療キットの提供ならびにイリア地区にある集中栄養回復センターの改修を支援しました。これにより5歳未満の幼児への良質な医療・食事療法を行うことが可能になりました。
（助成団体：メドゥサン・デュ・モンド ジャパン）

Happy Caps チャリティーチケット

12のプロジェクトから支援先を選んでチケット（HAPPY CAPS チャリティーチケット）を購入いただき、チケット代金の全額を寄付しています。

2011年度は、お客さまから2,815,930円をお預かりし、次の12のプロジェクトに総額13,855,500円を拠出しました。

<p>【環境保全】</p> <p>住民参加による地域住民の主体的な緑化活動を重視して、村単位での環境教育や苗木の育成、地域にあわせた植林の実施ならびに地区の管理、そしてこれらの活動を通じた雇用の創出を行う活動を支援しました。</p> <p>(助成団体：タゴール協会)</p>	<p>【こども支援】</p> <p>「貧しいから学校に行けない、学校に行けないから貧しい」という悪循環を断絶するため、生徒たちが教育を受けられるよう、生活費や学費、文房具の提供などを支援しました。</p> <p>(助成団体：涼山州農村教育協会)</p>	<p>【障がい者支援】</p> <p>盲導犬の普及を全国的に推進し、視覚障害者の自立と社会参加に貢献することを目的に、訓練士、歩行指導員の資格認定事業、盲導犬受入促進のための活動を支援しました。</p> <p>(助成団体：全国盲導犬施設連合会)</p>
<p>【健康支援】</p> <p>開発途上国において、貧困の軽減、社会の発展、平和の構築に寄与することを目的に、貧困からの脱出を願う人々と共に、農村や都市スラムで、地域保健や貧困削減に関連した活動を支援しました。</p> <p>(助成団体：AMDA社会開発機構)</p>	<p>【平和創造】</p> <p>今も続く地雷被害の実態を人々に知らせるとともに、地雷廃絶に向けた活動と被害者支援を実践することを目的に、講演会の実施、地雷撤去活動支援や地雷被害者への救済活動などを支援しました。</p> <p>(助成団体：カンボジア地雷撤去キャンペーン)</p>	<p>【リサイクル支援】</p> <p>世界各地の難民や避難民、被災者などを支援することを目的として、衣料品収集活動、海外輸送費募金活動、衣料品寄贈活動を支援しました。</p> <p>(助成団体：日本救援衣料センター)</p>
<p>【教育支援】</p> <p>すべての子どもにとって、生きる・育つ・守られる・参加する「子どもの権利」が実現されている世界を目指し、避難民・帰還民への支援や、子どもの学習環境、衛生環境の改善事業を支援しました。</p> <p>(助成団体：セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン)</p>	<p>【伝統文化支援】</p> <p>援助が届いていない遠隔地の村落に住む人々が、貧困で苦しむことなく、しあわせに生活が営めるよう、現地の現金収入の元となる工芸品の職人への技術力の向上支援や医療サービスの提供を支援しました。</p> <p>(助成団体：タラヤナ財団)</p>	<p>【動物保護支援】</p> <p>行き場のなくなった動物のケアや治療、新しい飼い主さんの募集活動を支援しました。</p> <p>(助成団体：日本アニマルトラスト)</p>
<p>【自立支援】</p> <p>開発途上国において、貧困の軽減、社会の発展、平和の構築に寄与することを目的に、貧困からの脱出を願う人々と共に、農村や都市スラムで、地域保健や貧困削減に関連した活動を支援しました。</p> <p>(助成団体：難民を助ける会)</p>	<p>【介護支援】</p> <p>介護する人への直接的なケアやサポートの仕組みづくり、孤立しがちな介護者を社会へつなぐ仕組みづくりを考え、心のオアシス（電話相談）事業、訪問相談員の派遣事業などの活動を支援しました。</p> <p>(助成団体：介護者サポートネットワークセンター・アラジン)</p>	<p>【緊急支援】</p> <p>東日本大震災の被災地にある避難所において1万食の炊き出しを支援しました。</p> <p>(助成団体：ADRA Japan)</p>

トリビュート21基金

TOTAL
トリビュート21基金は、1996年のスタート以来累計で1億円を超え、ユネスコ本部をはじめ118の団体に寄付しました。

アルモンド基金

TOTAL
アルモンド基金は、2007年のスタート以来、累計で2,300万円を超え、ユネスコ本部をはじめ、10の団体の活動を支援することができました。

「世界の子どもたちにしあわせを贈るプレート」として各界で活躍する著名人や一般公募によって選ばれたお客さまがデザインしたトリビュート21プレートや関連商品を基金付きで販売しています。

2011年度は、お客さまから2,103,690円をお預かりし、ユネスコ本部に252,574円を拠出しました。

拠出した基金は、発展途上国の子どもたちを対象にした教育プログラムDREAM Center（ドリームセンター）の活動に活用されます。

TRIBUTE 21

デザインで世界をしあわせに導く……フェリシモとユネスコ共催のオンラインコミュニティ「DESIGN21：ソーシャルデザインネットワーク」から生まれたチャリティーリングシリーズを基金付きで販売しています。



2011年度は、お客さまから1,707,790円をお預かりしました。お預かりした基金は、次の9事業に総額418,691円を拠出しました。

難民を助ける会ならびにThe Halo Trustへ寄付し、地雷除去活動や地雷回避のための教育活動を支援しています。

メイク・ア・ウィッシュ・オブ・ジャパンに寄付し、難病と闘う国内の子どもたちの夢の実現を支援しています。

ハンガー・フリー・ワールドに寄付し、西アフリカの国、ブルキナファソで、5歳以上の子どもたちの給食を提供する活動を支援しています。

全国盲導犬施設連合会に寄付し、視覚障害を持った方を安全に快適に誘導する盲導犬の育成を行う8カ所の公認施設を支援しています。

タゴール協会に寄付し、インドの西ベンガル州、オリッサ州、ジャルカント州の砂漠化した地域での住民参加の森づくりを支援しています。

骨髄移植推進財団に寄付し、より多くのドナー登録を募るための骨髄バンクの広報活動を支援しています。

ユネスコ本部へ寄付し、開発途上国の子どもたちにアートやスポーツなどの機会を提供する「ドリームセンタープロジェクト」を支援しています。

WWFジャパンに寄付し、さんご礁の保全やジュゴンの保護をはじめとする、自然環境の保全と野生動物保護のための調査やキャンペーン活動を支援しています。

日本対がん協会に寄付し、ピンクリボン運動などのキャンペーン活動のほか、乳がん検診に携わる医師・技師への研修などを支援しています。

はな＊はな＊みどり基金

TOTAL
はな＊はな＊みどり基金は、2008年のスタート以来累計で600万円を超え、世界の植林活動を支援しています。

広葉樹の森づくり基金

TOTAL
広葉樹の森づくり基金は、2008年のスタート以来累計で200万円を超え、広葉樹の森づくりに活用されています。

「あなたが贈るお花が世界で植えられる植物とつながりますように」という願いをこめて、カタログ『しあわせの母の日』に掲載の商品をはじめ、一部、お花・植物を基金付きとして販売し、集まった基金で世界の植林活動を支援しています。

2011年度は、お客さまから1,524,954円をお預かりしました。お預かりした基金のうち、1,069,946円をタゴール協会の「インドの森づくり」事業に拠出しました。

「木でできた鈴 MOKURIN（もくりん）しずくストラップの会」を基金付きで販売、集まった基金で広葉樹の森づくりを進めています。

2011年度は、お客さまから150,720円をお預かりし、お預かりした基金のうち、総額371,482円をどんぐりの会に拠出しました。

富山県神通川の源流にあたる高山市や飛騨市の山中で、「MOKURIN」に使用しているナラ・トチ・エンジュ・ケヤキなどを植樹しました。毎年、加工となる富山湾の漁師さんも参加して植樹が行われています。また、2011年6月にはみんなの森活部も植樹に参加して「MOKURINの森づくり」が実施されました。「MOKURIN」を応援して下さった方々と共に森づくりが進められています。



子どもから大人まで約40人が参加しました。



植える苗木にメッセージを書き込んだリボン結びます。
"元気な森になりますように"の願いを込めて。



約1時間半をかけて、100本以上の木を植えました。

haco. ピース・バイ・ピース コットン基金

TOTAL
haco.ピース・バイ・ピースコットン基金は、2009年のスタート以来累計で2,500万円を超え、農村の自立支援、子どもたちの教育支援に活用されています。

フェリシモこども基金

TOTAL
NUSY ラブ&ピースシリーズを含むフェリシモこども基金は、2001年のスタート以来累計で6,700万円を超え、世界各地の子どもたちを支援しています。

綿花栽培で衰弱した土地を救い、未来の子供たちに元気な大地を残すために始動したプロジェクトです。インド産オーガニックコットンから作られる製品に基金をつけて販売し、集まった基金をインドでオーガニックコットン栽培を通じた農村の自立支援、子どもたちの教育支援などの活動に寄付します。

2011年度は、お客さまから15,822,186円をお預かりしました。お預かりした基金のうち、FORUM FOR INTEGRATED DEVELOPMENTに総額3,000,000円を拠出しました。

*haco.ピース・バイ・ピースコットン基金の活用レポートはウェブサイトにてご案内しています。ぜひ、ウェブサイトをご確認ください。
<http://feli.jp/s/ppb/>

2001年に起きた米国同時多発テロ事件をきっかけに、子供たちにしあわせな未来を残そうとメッセージを発信して基金もできる「nusy ラブ&ピースメッセージTシャツ」を発売し、集まった基金を世界の子どもたちのための活動に寄付しています。

2011年度は、お客さまから7,622,100円をお預かりしました。お預かりした基金のうち、8,723,100円を日本ユネスコ協会連盟に拠出しました。

お預りした基金は、日本ユネスコ協会連盟のアフガニスタンの子どもたちの教育支援に活用されます。

*NUSY ラブ&ピースシリーズは、ウェブサイトにてお申し込みいただけます。
<http://www.felissimo.co.jp/nusy/nusy911/>



LOVE&NPEACE
FOR CHILDREN
FOR ALL OVER THE WORLD

フェリシモ アクティビーズ

TOTAL
フェリシモアクティビーズによる基金は、スタート以来累計で、2,900万円を超え開発途上国の生産者の自立支援や子どもたちの支援に活用されています。

カタログ『みんなの地球村』に掲載のフェリシモ アクティビーズの商品の一部を基金付きで販売しています。



2011年度は、お客さまから1,280,894円をお預かりしました。お預かりした基金は、次の3事業に2,212,609円を拠出します。

ザ・チルドレン・オブ・セブファンデーションに寄付し、フィリピン・セブ島のストリートチルドレンとなった子どもたちの衣食住、教育、医療などの総合的な支援に活用されています。

ユネスコ世界寺小屋運動基金として、日本ユネスコ協会連盟へ寄付し、読み書きできない子どもや大人への識字教育を支援します。

「ベトナム子どもの家基金」として「ベトナム子どもの家」を支える会へ寄付し、ストリートチルドレンや親がいない子どもたちをサポートしています。

mama.f スマイリー基金

TOTAL
mama.f スマイリー基金は、2003年のスタート以来累計で1,400万円を超え、世界10カ国で子どもたちを支援することができました。

子どもを持つプランナーmama.fの「世界中すべての子どもたちが健康で、楽しい毎日が過ごせるように」という思いから、基金付きで商品を販売しています。



2011年度は、お客さまから472,880円をお預かりしました。お預かりした基金のうち、次の3事業に総額500,486円を拠出しました。

20年以上続いた内戦により、子どもたちの半数が慢性的な栄養失調に苦しむカンボジアの子どもたちに「幼い難民を考える会」を通じて10円給食活動を支援します。

インドの子どもたちに「ACE（エース）」を通じて直接子どもたちを児童労働から保護、予防し、教育が受けられるようにする取り組みを行う「子どもにやさしい村プロジェクト」を支援します。

フィリピンのマニラ首都圏でのストリートチルドレンをはじめとする恵まれない青少年たちに「国境なき子供たち」を通じて自立支援施設「若者の家」における安定した衣食住と教育訓練を支援します。



その他 基金付き商品の販売等による基金

ラブ&サンクス基金からAMDA社会開発機構へ1,941,883円を拠出しました。拠出した基金はザンビアの子どもたちへの支援に活用されます。

沖縄サンゴ基金からコーラル沖縄、沖縄水産高校へ1,552,470円を拠出しました。拠出した基金は、サンゴ礁の保全活動の支援に活用されます。

フェリシモの猫基金から国内の17の動物保護団体へ784,330円を拠出しました。拠出した基金は、猫をはじめ、捨てられた小動物の里親支援に活用されます。

キャンディ フォー チルドレン基金からAMDA社会開発機構へ624,564円を拠出しました。拠出した基金は、ザンビアのスラムに住み、食料不足や病気と闘いながら生活している子どもたちの栄養補給に活用されます。

株主優待ハッピーサンタクロースからACE（エース）へ285,000円を拠出しました。拠出した基金は、インドの子どもにやさしい村プロジェクトへの支援に活用されます。

スマイルアース基金から日本ユネスコ協会連盟へ240,702円を拠出しました。拠出した基金は、アンコール遺跡、コルディエーラの棚田群などの世界遺産を保護する活動に活用されます。

赤星憲広の輪を広げる基金からRing of Red ～赤星憲広の輪を広げる基金へ197,370円を拠出しました。拠出した基金は、少年野球普及活動を活用されます。

ピンクリボン基金から日本対がん協会（ほほえみ基金）に143,466円を拠出しました。拠出した基金は、乳がんで亡くなる女性を少しでも減らす「ピンクリボン運動」に活用されます。

Design for future 基金より、UNESCO 本部へ104,430円を拠出しました。拠出した基金は、開発途上国の子どもたちを対象にした教育プログラムDREAM Centre（ドリームセンター）の活動に活用されます。

その他の基金付きの商品の販売により集まった基金173,453円については、以下の11団体、1プロジェクトへ拠出しました。

- ユネスコ本部
- WWFジャパン
- セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
- タゴール協会
- ドイツ国際平和村
- ハンガー・フリー・ワールド
- メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパン
- 国境なき医師団日本
- 骨髄移植推進財団
- 日本ユネスコ協会連盟
- 日本国際ボランティアセンター
- 宮古、釜石、石巻でのクリスマスケーキプロジェクト

メリーで社会貢献

TOTAL
メリーで社会貢献は、2002年のスタート以来累計で1,4億円を超え、それぞれの活動を支援することができました。

* メリーで社会貢献は、フェリシモコレクションのお買い物で贈りする「フェリシモメリー（mr）」にてお引き換えいただくことができます。

* メリーで社会貢献は、ウェブサイトにてお申し込みください。なお、最新情報は随時ウェブサイトにてご確認ください。
<http://www.felissimo.co.jp/merry/>

フェリシモが発行するお買い物ポイント“フェリシモメリー”でプレゼントを選ぶ代わりに、社会性ある活動に寄付するプログラムです。集まったメリーの相当額をそれぞれの活動に寄付しています。



2011年度は、お客さまから10,576,350円をお預かりし、次の事業に総額17,040,800円を拠出しました。

「盲導犬育成支援」では、全国盲導犬施設連合会を通じて、全国の8カ所の盲導犬育成施設に寄付しました。それぞれの施設で盲導犬の育成や活動の啓蒙、また、引退した盲導犬たちの支援に活用されます。

「紛争地域の子どもたちへの医療活動支援」では、ドイツ国際平和村に寄付しました。紛争地域など海外から受け入れた子どもたちを治療したり、現地での医療支援を行いました。

「ブルキナファソの子どもたちへの栄養改善事業支援」では、ハンガー・フリー・ワールドに寄付しました。西アフリカの国、ブルキナファソの乳幼児妊産婦栄養改善事業に活用されます。

「地雷廃絶活動支援」では、難民を助ける会に寄付しました。地雷回避教育ならびに地雷被害者への自立支援活動に活用されます。また、基金の一部は、イギリスの地雷除去活動専門NGO The Halo Trustを通じて、地雷除去活動に活用されます。

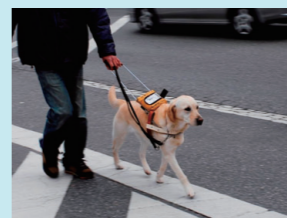
「自然環境の保全と野生動物の保護活動支援」では、WWF ジャパンに寄付しました。森や海などの生物多様性の保全、木材や魚介類など、自然資源の利用を持続可能なものにする活動、地球温暖化を防ぐ活動に活用されます。

「HIV（ヒト免疫不全ウイルス）/AIDS（エイズ）対策活動支援」では、国境なき医師団日本、日本国際ボランティアセンターに寄付しました。開発途上国の人々へのエイズの治療の提供、南米でのエイズ予防のための教育プログラム、南アフリカのエイズ感染者への生活支援に活用されます。

「国内の難病のこどもの夢をかなえる活動支援」では、メイク・ア・ウィッシュ・オブ・ジャパンに寄付しました。手づくりで、ひとりひとり違う子どもたちの夢をかなえる活動に活用されます。

「動物たちの保護と飼育支援」では、国内の18の団体に對して寄付しました。無責任な飼育に捨てられ、保健所などで処分されそうになる動物たちを保護し、新たな飼育主を探る活動に活用されます。

「国内医療支援」では、骨髄移植推進財団、日本さい帯血バンクネットワークに寄付しました。白血病などの血液難病に苦しむ患者を救うため、その活動を広く社会に普及する事業に活用されます。



©全国盲導犬施設連合会
訓練を受ける盲導犬



©ドイツ国際平和村
ルワンダの子供たち



©難民を助ける会
地雷回避教育の様子

神戸学校

TOTAL
神戸学校の参加料による寄付は、2000年の基金スタート以来累計で1,100万円を超え、これまでに桃穂育英会ならびにあしなが育英会神戸レインボーハウスに寄付することができました。

* 神戸学校は毎月開催しています。最新情報はウェブサイトにてご確認ください。
<http://www.felissimo.co.jp/kobe/>

フェリシモ ハッピートイズプロジェクト

TOTAL
フェリシモハッピートイズプロジェクトでは、1997年のスタート以来、39,000個を超えるハッピートイズが誕生し、日本を含む33カ国の子どもたちへ寄贈しています。

毎月1回、テーマにふさわしいゲストを神戸にお招きしてレクチャーやワークショップを開催する神戸学校は、集まった参加料の全額を寄付しています。

2011年度は、お客さまから772,100円をお預かりしました。お預かりした基金のうち、387,700円をあしなが育英会神戸レインボーハウスに拠出しました。

2011年度、神戸学校は全12回開催しました。

2011年度ゲスト

- ・ きむさん（写真家・詩人）
- ・ 周防 正行さん（映画監督） 草刈 民代さん（女優）
- ・ 穂村 弘さん（歌人）
- ・ 西村 佳哲さん（プランニング・ディレクター）
- ・ 平井 美鈴さん（フリーダイバー）
- ・ 上田 崇順さん（アナウンサー）
- ・ 田川 朋子さん（服飾作家）
- ・ 大場 ケイ子さん（ダイエツククリエイター・エッセイスト）
- ・ 石田 ひかりさん（女優）
- ・ ピース 千砂さん（『シモン・ピース』4代目マダム）
- ・ 土居 康宏さん（ミュージシャン）
- ・ 今井 彰さん（作家・元NHKエグゼクティブ・プロデューサー）

全国のお客さまに思い出の布や毛糸を使って毎年新しいテーマとともに発表されるキャラクターぬいぐるみ“ハッピートイズ”を手づくりしていただくプロジェクト。誕生したハッピートイズは笑顔の親善大使として国内外の子どもたちに寄贈しています。

2011年度は、計3,100個のハッピートイズを国内の子どもたちに寄贈しました。
(2011年3月1日～2012年2月28日現在)

<寄贈先>

あざひ幼稚園 / かみまの保育園 / 岩手県大船渡保育園 / 御影乳児院 / 真生乳児院 / 神戸少年の町乳児院 / 盛保育園 / 赤崎保育園 / 猪川保育園 / 南三陸ホテル観光託児所マリンバル / 難民を助ける会 / 日頃市保育園 / 明和保育園 / 立根保育園

* フェリシモハッピートイズプロジェクトの情報はウェブサイトにてご案内しています。最新情報はウェブサイトをご確認ください。
<http://www.felissimo.co.jp/toys/>

フェリシモ 基金活動について

本報告書に記載しています活動は、
お客さま、お取引先さま、株主のみなさま、従業員、現地で活動を行う団体、個人など
活動に関わるすべての人々によって支えられています。
本当にありがとうございます。
ひとりひとりの力は小さくても、それぞれの思いを重ねることで、
たくさんの夢を実現しています。
これからも、みなさまの思いを生かした活動を展開していきたいと考えています。
なおフェリシモでは、おひとりおひとりのお気持ちを
「全額、直接的な支援活動に生かす」を原則とし、報告書発行などの
広報活動や基金事務局の運営費用等はフェリシモが負担しています。
今後ともどうぞよろしくお願いたします。

ご意見・ご提案について

フェリシモの基金活動についてのご意見、ご提案をお寄せください。
<http://www.felissimo.co.jp/otayori/>

2011年度 基金拠出先一覧

すべての基金の拠出先です。
2011年度は、国内外の65団体の活動を支援しました。

ARTS for HOPE 事務局
あしなが育英会
特定非営利活動法人ADRA Japan
特定非営利活動法人アニマルレフュージ関西
アニマルレスキューシステム基金
特定非営利活動法人アムダ
特定非営利活動法人AMD A社会開発機構
特定非営利活動法人犬と猫のためのライフポート
認定NPO法人ACE
特定非営利活動法人エファジャパン
認定NPO法人幼い難民を考える会
特定非営利活動法人介護者サポートネットワークセンター・アラジン
特定非営利活動法人牡蠣の森を募う会
公益財団法人ジョイセフ
一般財団法人カンボジア地雷撤去キャンペーン
特定非営利活動法人北九州ノアハウス
特定非営利活動法人キャットネットかまくら
協働参加型めぐりの森づくり推進会議
公益財団法人ケア・インターナショナル ジャパン
特定非営利活動法人ケンの家
特定非営利活動法人コーラル沖縄
特定非営利活動法人国境なき医師団日本
認定NPO法人国境なき子どもたち

財団法人骨髄移植推進財団
ザ チルドレン オブ セブ ファウンデーション
特定非営利活動法人シェア=国際保健協力市民の会
特定非営利活動法人ジェン
特定非営利活動法人シャプラニール=市民による海外協力の会
公益財団法人シャンティ国際ボランティア会
湘南ねこの会
公益財団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
公益財団法人世界自然保護基金ジャパン
認定NPO法人全国盲導犬施設連合会
タゴール協会
タラヤナ財団
特定非営利活動法人麩庵(ちいおり)トラスト
ちばわん
ドイツ国際平和村
動物いのちの会いわて
どうぶつ福祉の会AWS
特定非営利活動法人 トータル・サポート
特定非営利活動法人ドングリの会
認定NPO法人難民を助ける会
認定NPO法人日本アニマルトラスト
特定非営利活動法人日本救援衣料センター
特定非営利活動法人日本国際ボランティアセンター

日本さい帯血バンクネットワーク
公益財団法人日本対がん協会 (ほほえみ基金)
NPO法人日本動物生命尊重の会 A. L. I. S.
公益社団法人日本ユネスコ協会連盟
一般社団法人 にゃんだーガード
PAK保健所の犬・猫を救う会
人と犬猫との共生を考える ハッピーテール
特定非営利活動法人ハンガー・フリー・ワールド
被災地NGO協働センター
150匹犬猫ボランティア
Forum for Integrated Development
ふんばろう東日本支援プロジェクト
ベトナム子どもの家を支える会(JASS)
特定非営利活動法人HOKKAIDOしっぽの会
一般財団法人メイク・ア・ウィッシュ オフ ジャパン
認定NPO法人メドウサン・デュ・モンド ジャパン
ユネスコ本部
涼山州農村教育協会
Ring of Red ~赤星恵広の輪を広げる基金~

* 報告書本文中では、法人格を省略して紹介させて
いただきました。
* 団体名称は、基金拠出時のものです。

フェリシモ基金活動ページ

本報告書は、2012年6月現在の情報をもとに作成しています。本報告書は、ウェブサイト上でPDFデータでもご覧いただけます。

<http://www.felissimo.co.jp/kikin/>

2011年度
フェリシモ基金活動報告書

発行元：フェリシモ基金事務局
株式会社フェリシモ内
〒650-0035 神戸市中央区浪花町59番地
TEL. 078-325-5753 (平日9:30~17:00)
FAX. 0120-055-827
発行：2013年3月

ともにしあわせになるしあわせ

